

第27回平和祈念展示資料館の運営に関するアドバイザリーボード 議事要旨

1 日 時：平成30年11月13日（火）14：00～15：45

2 場 所：総務省8階第4特別会議室
千代田区霞が関2-1-2 中央合同庁舎第2号館

3 出席者：（委員）

◎黒沢 文貴（東京女子大学現代教養学部教授）
○戸谷 好秀（独立行政法人統計センター顧問）
兼川 真紀（弁護士）
亀井 昭宏（早稲田大学名誉教授）
斎藤 靖二（神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館長）
[敬称略、◎は座長、○は座長代理]

（総務省）

相馬 清貴 官房審議官
荒木 健司 管理室長

4 議事次第

- （1）「平成30年度 平和祈念展示資料館 運営業務実施状況（見込み）報告」
及び「平成31年度 事業計画の提案」についての説明
（2）意見交換等

5 議事要旨

「平成30年度 平和祈念展示資料館 運営業務実施状況（見込み）報告」及び
「平成31年度 事業計画の提案」についての説明
委託業者から説明後、意見交換が行われた。
委員の主な発言等は以下のとおり

- 日常業務の中で勉強会の時間を持つのはなかなか厳しいところがあると思うが、知識や視点を広げていくことは重要なので、これからも続けていただきたい。
- 所蔵資料は限られているので、その中で新しいアイデアを出して企画展をやっていくのは大変だと思う。リピーターを確保していくためにも、他館などから展示資料を借りることがあってもよいだろう。
- 外国人来館者のために、ポスターなどに英語で資料館へのアクセス方法を載せるとよいだろう。
- 大学と連携し、学生を巻き込んで開催した展示会は、若い世代へのアプローチとして新しい展開の仕方である。他の美術系の大学に働きかけたり、学生にアイデアを競わせる形をとったりすることなどで同じ若い世代への訴求が広がる可能性があるかと思う。今後も新しい見せ方に挑戦していただきたい。
- 語り部活動について、若い世代に引き継いで行っているところもあるが、何をどのような形で伝えていくのか、どのようにすれば若い世代に響くのか、いろんな方向で引き続き検討していただきたい。
- 資料館のテーマについて、若い人たちに対しては細かい部分を知らせないとわからないであろう。展示方法など工夫していかないといけないだろう。
- 講演会や研修会などに参加し、他館との交流を図っていくことにより、新たな方向性を見いだすことができるのではないかと。